



IRODORI

柏市 地域共生社会連携会議 (庁内連携会議) 報告書



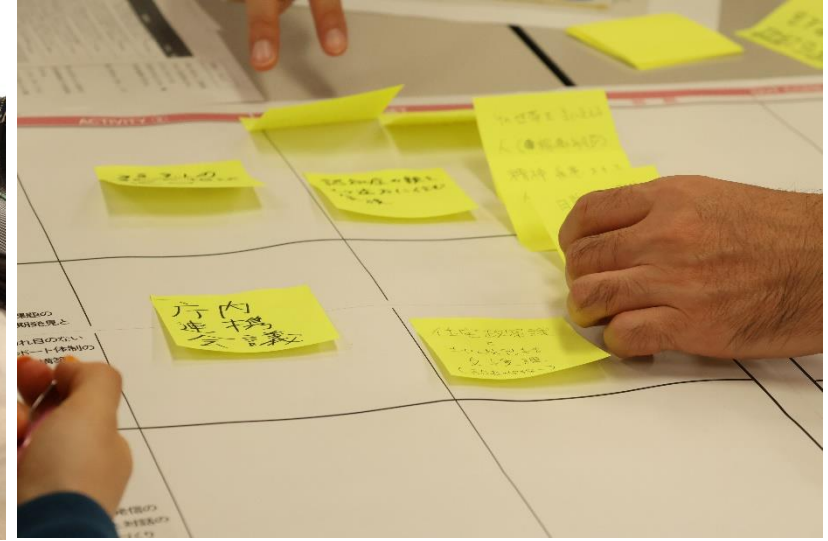
地域共生社会連携会議



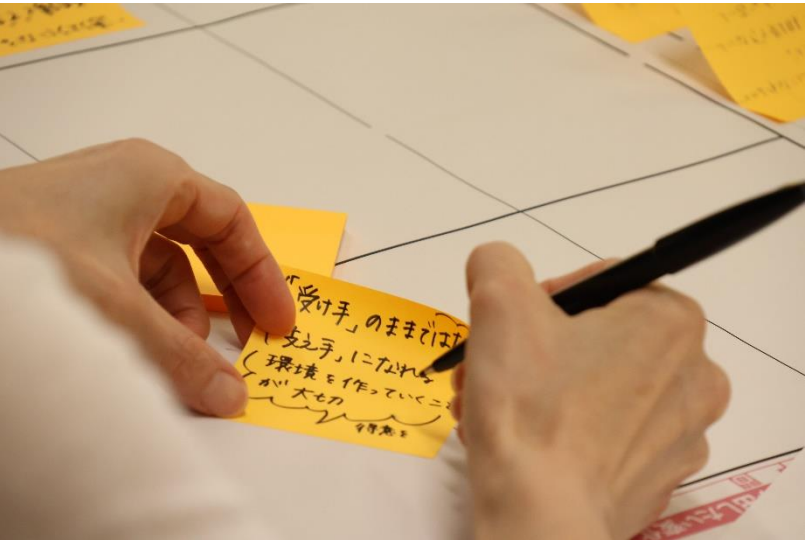
第3回地域共生社会連携会議に向け、各基本方針ごとのセオリーオブチェンジによる体系表ワークシートを作成しました。



今回の計画では、セオリーオブチェンジというフレームワークを用いた体系整理を行います。
会議当日は、セオリーオブチェンジの説明を行った後、基本方針ごとにわかれたグループでのワークによる整理を行いました。



最初に、基本施策案を達成するために重要と思われる事業を1つ選択します。そして、その事業の対象となるターゲットを表現します。



セオリーオブチェンジとは

セオリーオブチェンジ（変化の理論）とは、長期的な目標達成のための前提条件と道筋を説明する包括的なフレームワークです。変化のプロセスを詳細に描き、なぜ特定の結果が期待されるかを説明します。複雑で相互接続的であり、仮説や前提条件を含み、変化のプロセスを詳細に描くという点で、直線的な構造を持ち、投入から成果までの流れを主に一方向で示すロジックモデルとは異なります。

最後に、それらのターゲットに生み出したい変化を短期・中期・最終の3期に分けて表現します。このワークを行うことで、基本施策案に対する重点事業の検討、および最終的に体系化するための要素を知ることができます。

■ 柏市地域健康福祉計画のtheory of change（イメージ）

ISSUE（課題）	ACTIVITY①	ACTIVITY②	TARGET	OUT COME（生み出したい変化）			GOAL
				初期	中期	最終	
● 地域内のコミュニケーションが希薄で、必要な情報が伝達されていない ● ボランティア活動について、住民参加のハードルが高い ● 新型コロナウイルスの影響でボランティア活動が減少している ● 地域の現状や課題について、対話を通じて共有の場が少ない ● 地域活動を行う人材が少ない	柱1 地域での交流、助け合いに向けた学びの場と活動の促進 地域福祉を担う人材の育成・活躍支援 地域福祉活動団体等との連携と活動推進の支援整備						だれもが、その人らしく住み慣れた地域で共にいきいき暮らせるまち
● 地域化・集合化した課題の解決について、相談先がわからない ● 地域・機関以外の相談相手が少ない ● 課題を抱えた方が相談できるきっかけづくりや情報発信の場が少ない	柱2 分野にまたがらない内・外と相談の実現 課題の早期発見と切れ目のないサポート体制の構築 情報発信の充実と対話の場づくり						
● 地域活動の取り組みについて、周知が足りておらず市民ニーズを把握しきれない ● 市民一人一人が心身の健康増進に向けた取組が促されるような支援施策が少ない ● 住民自身が参加して地域課題を解決する共創型の取組が少ない	柱3 地域を核とした心身の健康づくりの促進 子どもの健やかな育ちを保障し応援する環境構築 保健・医療・福祉及び生活関連分野の充実と連携 あらゆる人が活躍を誇り自分らしく活躍できる環境の構築						
● 高齢者や障がい者、子ども（子育て世帯）が安心して暮らせる支援体制が充実していない ● 地域防災や防犯についての教育や啓発活動が充実していない ● だれもが安全・安心に暮らせる環境づくりを推進する上での地域力のつくりや、災害時被害軽減等の支援体制の整備が十分でない	柱4 防災対策と災害時の支援体制の充実 地域安全活動の充実 居住・就労・移動支援の充実 権利擁護と虐待防止の推進						

ワークにて検討した重点事業の変化の過程（例：柱1 基本施策1）

GOAL

ISSUE 課題	ACTIVITY ①	ACTIVITY ②	TARGET	OUT COME 生み出したい変化		
				初 期	中 間	最 終
地 域 内 の コ ミュニケーショ ンが希薄で、 密な信頼関係 が構築されて いない	基本施策	事業	事業の対象像	・ サロンに行っ て10～20分のミ ニ講座を実施 ・ 講座の実施が 片手間ではなく 業務として認識 できる職員が増 える	会話の中で キーワードを ひろって講座 の案内ができ る職員が増え る	自ら発信して 講座に関係な く住民にアプ ローチできる 職員が増える
ボランティア 活動について、住民参加 のハードルが高い						
新型コロナウイ ルスの影響で ボランティア活 動が減少して いる	地域での 支えあい、 助けあいに向 けた 学びの場と 活動の促進	地域出前講 座の実施	障害への理解を 地域に広めたい 職員			
地域の現状 や課題につい て、対話を通 じた共有の場 が少ない						
地域活動を行 う人材が少な い						

だれもが、その人らしく住み慣れた地域で
共にいきいきと暮らせるまち

設定した事業（講座）の
「出席者（市民）」ではなく、
「開催する側（行政）」を
対象像とした場合で変化の過程を検討

設定した事業に取り組むことで、
対象者にどのような変化が起こる
ことが期待されるかを
初期・中期・後期で検討